



2020年5月31日主日礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【信じる民を守り、回復させて下さる神様】

聖書本文:エズラ記(Ezra)1:1-6・3:10-13節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。子供たち、学生たちのみなさん！先週始まった学校生活はどうでしたか。疲れていませんか。疲れて鼻血が出たりした子どもたちはいませんか。また今週から、今週から始まる6月中にも、子供たちや学生たちの学校生活が守られ、祝福されるように切にお祈り致します。

我々が住んでいる今の時代を、ポストモダニズム(postmodern)時代だと言われます。このポストモダニズム時代の特徴は、絶対的な真理は存在しない、「破壊と解体」が特徴です。そのため、今の時代の人々は、他の時代よりも多くの混乱と傷をかかえながら生きています。さらに、今年からコロナウイルスの脅かしが加えられ、不安と恐れ、孤立と委縮の中で生活しているでしょう。そのため、我らの信仰にも多く影響され、目に見えない神様の存在よりも、目に見えないウイルスの存在がクリスチャンの心と生き方の中で大きく占めてしまい、神様がこの時代に、本当に自分と家族を守って下されるのか、実際助けて下されるのか、コロナウイルスの以前のような信仰と教会生活、礼拝の姿に戻れないのではないのか、なかなか回復できないのではないのか、我らの信仰もさらに委縮され、不安と恐れを持っています。今の不安と恐れの時代の中で、聖書で神様は我らにどう語って下さっているのか、どのように生きることを望んでおられるのか預言者の書の部分を通して学び続けています。今日はミカ書、ホセア書に続き、本日は旧約聖書の15番目に出ているエズラ記についての御言葉を通して共に学んで行きたいと願っております。

まず、先週我らは、ホセア書を通して、イスラエルが分かれた国北イスラエルの人々に、神様は、特別に耐え難い家庭の夫婦関係の姿を神のメッセージを伝えて下さいました。つまり、**ホセア書6章6節、「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」**のだと、神様がいったい何を望んでおられ、喜ばれるのかを教えてくださいました。しかし、残念ながら、北イスラエルの民たちは、ホセア預言者のメッセージに対し、最後まで悔い改めず、神の御心を知り、従うとしなかった結果、BC紀元前722年アッシリア王国に完全に陥落され、捕囚となって、アッシリアに連れられたり、サマリアでは強制的に混血され、純粋なイスラエルの血筋を失ってしまう悲惨な結果をもたらしてしまいます。

自分たちは、神に特別選ばれた選民民族として、絶対、異邦人の国々からは守られるだろうと思込んでいたイスラエルの南ユダ王国の民たちには、当然、同胞の北イスラエルの滅亡を見ながら、かなりショックで、しっかり神様の前で、さらに謙虚になって、神様に立ち返ったと思われるでしょう。

しかしまた残念ながら、南ユダのイスラエルの民も、神様が預言者を送っても、明確なメッセージをいくら伝えつつけても、聞かず、むしろ預言者たちを殺しながら、自分たちは、絶対神に守られ、平安で大丈夫だろうと思込んでいた結果、北イスラエルが滅ぼされてから、136年後の紀元前(B.C.)586年、南ユダ王国は、3回激しいバビロンの攻撃を受けについに陥落され、滅んでしまいます。

我らに、今神様のメッセージを聞ける時が許され、神様に立ち返り、主を仰ぎ見、心を主にむけさせ、悔い改めれる時が我らに許されているこそ、神の恵みと哀れみの時であることを忘れてはいけません。今の時代も、同じく、今日も神様が何を我らに望んでおられるのか、何を求めておられるのか、主の前でどう生きることを喜ばれるのかを深く探り、始まる6月にも日々主と共に同行するみなさんとなりますように切に祈ります。アーメン！！

<1. エズラ記の背景:絶望の中にあっても、約束を守り、取り戻して下さる神様>

今日の聖書の本文、エズラ記はイスラエルの南ユダ王国が結局、バビロンに捕虜になって70年間バビロンで奴隷としての悲惨な生活を経験することになります。

ペルシヤの王クロスの勅令(ちよくれい)によって、本土に帰還することとエルサレムに戻って破壊された聖殿を立て直し、民たちの罪を洗い聖める働きが記録されている聖書がエズラ記です。エズラ記はおもに二つの部分に構成されていますが、始めの所は聖殿を再建させるために、ゼルバベルの指導のもとで行われた第一次帰還(1-6章)と、二番目のところは民の霊的状态を再建するためエズラの導きのもとで行われた2次帰還(7-10章)の内容で書かれています。

北イスラエルと同じく、南ユダも結局、偶像崇拜と神に不従順の罪によって滅ぼされ、その民はバビロンの捕虜として連れられて行きました。神様は預言者エレミヤを通して預言されたようにバビロンでの辛い70年間の捕虜としての時が過ぎたら、必ず、彼らに戻らせ、回復させて下さいます。この捕虜期間中の民族的悲しみを歌った詩が詩篇137篇でした。この詩には国を失った民族の痛みと悲しみが込められています。

「バビロンの川のほとり、そこで、私たちは座り、シオンを思い出して泣いた。その柳(やなぎ)の木々(きぎ)に私たちは立琴を掛けた。それは私たちを捕え移した者たちが、そこで、私たちに歌を求め、私たちを苦しめる者たちが、興(きょう)を求めて、「シオンの歌を一つ歌え」と言ったからだ。」このように始まるこの詩がバビロンの捕虜の苦しい期間中に書かれた詩であり、歌でした。

しかし、神は彼らを完全に滅ぼさせ全滅させたわけではありません。

全ての国、歴史を統べ治めておられる神様はユダの民族が70年間捕虜としている間、当時バビロン帝国にも大きな変化を起こさせます。今まではバビロンが最強の国でしたが、神様は新しいペルシヤという帝国が登場させます。この国の王がクロス(Cyrus)でした。この新生の帝国が紀元前539年に、バビロンをまた征服するようにさせ、当時の世界の覇権(はけん)を握るようにさせました。このクロス王が538年にはイスラエルの南ユダの人々の為に勅令を下しました。その内容が今日の本文1章2節以下の内容です。その内容は3つに要約できますが、一つは捕虜として連れられたユダ民族に自由を宣言したのです。つまり、70年間の捕虜生活を終え、自分たちの本国に帰ることを許したのです。二つ目はバビロンのネブカデネザルによって破壊された聖殿をもう一度再建出来るように許可しました。三つ目はネブカデネザル王が南ユダから略奪したすべての物の返還させる約束をしました(エズラ1:5-11)。これは偶然に、たまたま起こった歴史の出来事では決してありません。ペルシヤのクロス王は特に素晴らしい信仰を持っていたわけでもありません。

バビロンに捕虜とされ死ぬほど苦しみの中にいたご自分に民に約束されたように70年が過ぎてから、神様の約束を真実成就させる神の憐れみの御業と導きであったことが分かります！！

それによって、ついに彼らがもはや自分たちの故郷である神様の約束された地に戻る様になりました。クロス王の勅令によってユダ民族がついに紀元前536年に、エルサレムに第一次帰還が許され、この時の引率の指導者として、立てられてたのがゼルバベルとシェシュバツアルとヨシュアでした(エズラ2:2、3:2)。

‘ゼルバベル’とはバビロンで生まれたと言う意味です。‘シェシュバツアル’はダビデの系列の王子ですが、彼はエルサレムの総督として指名されました。とにかく、彼らの指導のもとに、初めて、イスラエルの民族は帰還されます。バビロンから返ってくる距離はエルサレムまで700マイル、つまり1200kmに至りました。この時戻って来たイスラエル南ユダの人口の中が約5万人がその1次グループで帰還されました。その人々の名前がエズラの2章に記されています。70年の捕虜生活を終えて、本土に戻るこの長い旅は、イスラエルの民たちにとって第2の出エジプトと言えるでしょう。長い間、奴隷の鎖から解放と自由を味わった時の喜びと感激はどれほど大きかったのでしょうか。この解放の喜びを主に歌った詩が詩篇126篇です。

「主がシオンの捕らわれ人を帰されたとき、私たちは夢を見ている者のようであった。そのとき、私たちの口は笑いで満たされ、私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。そのとき、国々の間で、人々は言った。「主は彼らのために大いなる事をなされた。」このように主からの解放と回復の喜びと感激が始まる6月中愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の全家族の上にも豊かにありますように主イエスキリストの御名によって祝福をお祈りいたします。

<2. 帰還されてから最優先にやった事:礼拝と打ち壊されていた神の聖殿を再建する(第二の聖殿、ゼルバベル聖殿)>

あんなに感激と喜びに満ちていたイスラエルの民が、本土エルサレムに戻って来て一番先に始めたのは何でしたか。彼らはエルサレムに集まり、まず始めに打ち壊されていた神の聖殿を再建することにします。そうするために、先に神様にいけにえをささげながら、感謝と感激礼拝を捧げていたことが分かります。その内容が3章の内容です。神様に感謝の礼拝をささげながら、感謝とこれからの導きのために神に祈ります。ソロモン聖殿が打ち壊されてから、イスラエルの民は帰還されてから自分の家や他のところよりも、一番先にふたたび神に礼拝を捧げられる聖殿を建築しようとしたことが分かります。しばらく、イスラエルの民は礼拝を捧げるところがなかったため、まずすぐ建てたのがイエス様の当時まであった小さな会堂でした。エズラ記今日の本文の3章10節からは、聖殿建築を着手しながら、まず聖殿の礎を据えたとき、集まった全イスラエルの民がみんな喜びの賛美と感激の涙を流しながら、大声をあげて泣いたことが分かります(3章12-13節)。

「祭司、レビ人、一族のかしらたちのうち、最初の宮を見たことのある多くの老人たちは、彼らの目の前でこの宮の基が据えられたとき、大声をあげて泣いた。一方、ほかの多くの人々は喜びにあふれて声を張り上げた。13そのため、だれも喜びの叫び声と民の泣き声とを区別することができなかった。民が大声をあげて喜び叫んだので、その声は遠い所まで聞こえた。」

ところが、それから本格的に聖殿建築を始めますが、崩れて来た神様との関係を立て直し、神様が喜ばれることをしようとすると必ず、妨げが起りうるでしょう。神様に近づけないように、神様に礼拝を心から捧げることが出来ないように、色々な戦いと妨げがみなさんにも起こっている方はいませんか。

イスラエルの民も、これから本格的に、一番最優先に神様に礼拝を捧げる場所である聖殿を建てることに力合わせて進もうとした時に、思わぬ北地域のサマリア人たちの反対と妨害の為、何と約14年間聖殿建築が中断され落胆してしまったことがわかります。しかし、神様は、また預言者ハガイとゼカリヤを送り、イスラエルの民たちを励まし(エズラ4章23節-5章17節)、ついに紀元前520年エルサレムで神の聖殿が完成されます。帰還されておおよそ20年がかかりました。このように建てられた聖殿を‘第二の聖殿’、‘ゼルバベル聖殿’とも呼ばれ、このゼルバベルの聖殿は新約時代イエス様の時までであったことが分かります。

<3. 聖書学者エズラの第二の帰還>

1次、ゼルバベルの帰還の後、長い80年と言う時間が経った紀元前458年に、神様は指導者エズラ(神の助けと言う意味)は祭司、レビ人、民など男子だけで1753名ですので、子供、女を含めておおよそ5千人規模の人々を引率し、約4ヶ月あまりかけてエルサレムに戻って来ました。これを「イスラエルの第二次帰還」とも言います。エズラ記8章にはまた2回目帰還された人々の名簿が書かれています。

エズラは預言者よりも、律法を研究して、伝えていた学者でした(7章6節)。祭司長のアロンの子孫の中でモーセ、サムエルとともに旧約の偉大な3人の中の一人でした。帰還した学者エズラが一番大切な神様からの使命は何だったのでしょうか。エズラ記10章を読んで見ますと、これから内側の神の聖殿を再び再建することであったことが分かります！神に礼拝を捧げるゼルバベル聖殿はもう建てられていましたが、神様がイスラエルの民に一番望んでおられ、喜ばれたのは何でしょうか。以前イスラエルが滅びる前に神の前で行っていた心のない、儀式や形ではなく、もう一度、一人一人が神様との関係の再建、内側の心と信仰を立て直す作業でした！

そのために、まず、罪を告白し、神様の御言葉による生き方と生活の信仰の改革を行います。なぜなら、残っていた北イスラエルの民から始め、帰還したユダヤ人たちは80年のうちに、またいつのまにか、罪の癖や生活を完全にあきらめず、また異邦の偶像崇拜をしている人々と結婚したり、霊的に墮落していたからです(エズラ10:7-9)。

今日も神の御前で、礼拝を捧げているクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！生きておられる神様は今も、我らの心の中心をご覧になります！そして、日々の生活の中で神様とどんな関係を持って、生活をして来ているのか全てご存じであります。主はみなさんの心からの礼拝と信仰の生き方を望んでおられ、喜ばれることを続けて学んで来ています。もう一度、今日の礼拝が全てを見ておられ、知っておられる神の御前で、自分を深く顧みる時となりますように、もし、悔い改めが必要な方々は、悔い改めを、生き方を改めて変えなければならない方々は、今日の礼拝を通して、主の助けを頂き、新たに再出発出来る決心の時間となりますように切にお祈り申し上げます。

<4. 御約束を最後まで守る神様の愛と回復>

今日の本文を通して、我々が信じている神様は預言と約束を成就される変わらない真実な神様であられることが分ります。本文1章1節を見て下さい。“ペルシヤの王クロスの第一年に、エレミヤにより告げられた主のことばを実現するために”と始めます。神様は事前に預言者エレミヤを通して、ユダ王国が敗亡し、70年間バビロンの捕虜となることを預言しました。エレミヤ25章11節によると、「この国は全部、廃墟となって、荒れ果て、これらの国々はバビロンの王に七十年仕える。」と預言し、また、70年間の捕虜生活後、彼らがふたたび取り戻し、回復させて下さる事もあらかじめ、預言しました。その預言がエレミヤ書29章10節に記録されています。「まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。」神様はクロス王の心を変え、勅令を通して、捕虜生活の帰還と回復を預言されたエレミヤの預言の通り、全て成就させて下さったことが分ります(エレミヤ25:11-12,29:10-14)。

愛するみなさんは、改めて、父なる神様は人間のすべての歴史をすべ治めておられ、人類歴史のすべての始終を導びかれるお方であることを今日も信じますか。

そして、我々が信じているその父なる神様は信仰の共同体に、我々個人の人生において言われたすべてのお言葉の約束をかならず成し遂げて下さいます。神様のお言葉と約束は変わりなく、破棄(はき)されません。人は約束を破ったり、変わったりしますが、神様のお言葉と約束は必ずそのまま成就されるでしょう。

今日、我らにその変わらない、全て成し遂げられる神様のお言葉と御約束は何ですか。どこにあるでしょうか。そうです。それが聖書ではありませんか。ですから、聖書を開かないで、我らに向ける神の御心とご計画と約束を決して知ることが出来ません。神の御言葉から離れて、みなさんの人生に主が何を望んでおられ、なさろうとされるかわかりません。

エズラ学者を通して、神様は帰還してから、神の律法の御言葉を聞き、彼らに朗読し、聞かせ、神の御前で一人一人が新たに建てられて生けるように内側の改革を起こして下さったことが分ります。

ネヘミヤ記8章5-6、9-10節はその場面を生々しく記録し、我らに伝えて下さっています。共に開いて見ましょう。

「5エズラはすべての民の面前で、その書を開いた。彼はすべての民よりも高い所にいたからである。彼がそれを開くと、民はみな立ち上がった。6エズラが大いなる神、主をほめたたえ、民はみな、手を上げながら、「アーメン、アーメン。」と答えてひざまずき、地にひれ伏して主を礼拝した。9総督であるネヘミヤと、祭司であり学者であるエズラと、民に解き明かすレビ人たちは、民全部に向かって言った。「きょうは、あなたがたの神、主のために聖別された日である。悲しんではならない。泣いてはならない。」民が律法のことばを聞いたときに、みな泣いていたからである。10さらに、ネヘミヤは彼らに言った。「行って、上等な肉を食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった者にはごちそうを贈ってやりなさい。きょうは、私たちの主のために聖別された日である。悲しんではならない。あなたがたの力を主が喜ばれるからだ。」アーメン！

エズラ記10章1節に、「エズラが神の宮の前でひれ伏し、涙ながらに祈って告白しているとき、イスラエルのうちから男や女や子どもの大集団が彼のところに集まって来て、民は激しく涙を流して泣いた。」

真の神様との関係の回復、真の礼拝の感激の回復、真の罪から解放された自由と喜びの姿ではありませんか。神様との関係の回復、御言葉の回復、礼拝の回復こそ、人が変わり、生き方が変わり、全ての回復と改革の始まりになると信じます！コロナウイルスの影響により、仕方なく、オンライン礼拝に転換し捧げて来たわれらの教会は、6月から、2部に分け分散しながら、教会での礼拝を取り戻し、教会での礼拝をメインにしようとしています。子どものアワナクラブも、幼稚部のカビーズだけオンラインに継続させ、小学部とユースのJVも以前のように教会で行うことを決めました。もちろん、教会が出来る全ての

予防方法尽くして、準備(空気清浄機4台、非接触温度計購入、マスク、消毒剤、フェイスシールド、ちゃんと3密を注意し行う予定ですが)、みなさんの不安と恐れに信仰の勇気が必要でしょう。

6月から、共に、イスラエルの民たちのように、もう一度礼拝への回復、信仰への回復、神様と関係への回復を目指して行きませんか。必ず、主が神様に頼りつつ、主にさらに近づき、進もうとする我らを主ご自身が我らを助けて下さると信じます。

今日のエズラ記での神様は変わらない神様の愛を示し、ついに回復へと守り導いて下さったことを共に覚えましょう。神様はご自分の民を永遠にバビロンの捕虜として置かないで、70年が過ぎた時、神の約束の通り、彼らを赦し、ご自分の民を本土に戻させました。たとえ、彼らが罪を犯してゆえ、懲らしめを受けたのですが、神様は彼らを再び回復させました！懲らしめは愛の表示であり、関心の表しです。ですから、みなさんも愛することもたちが悪いことをやってしまったら、懲らしめるのではありませんか。

ヘブル人への手紙12章6節に「主はその愛する者を、懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからです。訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生児であって、ほんとうの子ではないのです。」

神様は御民をバビロンと言う国をとおして懲らしめましたが、ペルシヤの王クロスを用いて下さってふたたに約束の地に導き入らせてくださいました。神様は彼らを癒し、回復させてくださいました。バビロンの捕虜たちは偶像崇拜の罪から、完全に断ち切りました。捕虜以前は偶像崇拜の罪を繰り返して犯しましたが、捕虜以後はその罪は犯しませんでした。

イザヤ書54章7節によると、「わたしはほんのしばらくの間、あなたを見捨てたが、大きなあわれみをもって、あなたを集める。怒りがあふれて、ほんのしばらく、わたしの顔を隠したが、永遠に変わらぬ愛をもって、あなたをあわれむ」とあなたを贖う主は仰せられる。」ほんのしばらくの間は見捨て懲らしめたが、ふたたびその民に変わらない愛とあわれみを与え回復の恵みを与えて下さると言われました。実際エズラ記をとおして、神様の癒しと回復される神様の愛が表されています。

<5.エズラ記のまとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!時々、我々も罪を犯したり、失敗もしたり、落胆する時もあるでしょう。ある時には我々が神を背いて、神から離れて自分勝手に歩もうとし、決めつけようとする、なかなか罪の癖をやめられない時があります。その時、神様が我々を愛するがゆえに懲らしめる時もありますが、永遠にそうさせておられません。傷ついた心をもって苦悩している我々を呼び寄せ、回復への道に導いてくださる方が我々が信じている神様です。

我々もこの地上を生きていく時すべてが人の手のひらにあるかのように見えても、神様ご自身が我々の生死、環境と人生すべてをおさめておられます。今もみなさんの家庭を、一人一人の命も、仕事の全ての手のわざも、子供たちの将来も、主の御手の中にあり、全て主が成し遂げて下されるのも神様ご自身であられます。我々の痛みも、苦しきも苦悩の現場で我々を包んで、癒し、慰め、真の回復への道に導いて下さいます。

クロス王の心をさえ感動させ動かさず用いて下さった神様が今もみなさんの魂と心の中で働きかけておられます。我々と回りの人々の心を変え、導かれます。過去の歴史の時も、今も、明日から始まる6月の全ての先の中にも働かれる神様を頼りきって、信じ切って、みあげながら、進みましょう。毎日神の御心を知り、従うために、もう一度神の御約束、神の御言葉を聞くことが出来ますように切に祈ります。6月が神様との関係も、周りの人々との関係も回復させて下さる神の恵みの御業をみなさんに起こされる回復の6月となりますように！体験出来ますように、みなさんの全ての望みと願いに神様の御約束の中で、実際実現される祝福の6月となる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますようにお祈り申し上げます。

アーメン！



2020年度標語

新たにリセットして行く 信仰の家族

[申命記30章2-3節]

- 神様中心にリセットして行く信仰の家族
- 聖書中心にリセットして行く信仰の家族
- 家庭と教会中心にリセットして行く信仰の家族

日本同盟基督教団
クリスチャンプレイズチャーチ